

第8回 八戸西スマートインターチェンジ地区協議会資料（概要版）

1. 八戸西スマートインターチェンジ地区協議会について

【目的】

- ・協議会は、八戸西スマートインターチェンジ（以下「スマート IC」という。）の設置、管理及び運営等について、必要な検討及び調整等を行うことを目的とする。

【協議会の事業】

- (1) スマート IC の設置に係る次に掲げる検討及び調整等
 - ① スマート IC の社会便益（スマート IC の費用と比較し、十分な社会便益を確認すること）に関する事。
 - ② スマート IC 及び周辺道路の安全性に関する事。
 - ③ スマート IC の設置に伴う高速道路の利用交通量の変化に関する事。
 - ④ スマート IC の構造及び整備方法に関する事。
 - ⑤ スマート IC の管理・運営方法に関する事。
 - ⑥ スマート IC の利用促進方策に関する事。
 - ⑦ 広域的検討結果の反映に関する事。
 - ⑧ その他スマート IC を設置・管理・運営する上で必要な事項に関する事。
- (2) スマート IC の供用開始後の社会便益・安全性・利用交通量・管理・運営形態等についての定期的なフォローアップ及び必要に応じた見直し
- (3) その他目的達成に必要な事業

2. 供用開始（H31. 3. 23）から R6. 8. 31 までの利用状況について

【(1) 八戸西スマート IC の概要と位置】

- ・八戸西スマート IC は、東北縦貫自動車道八戸線、八戸 JCT と八戸北 IC の間に設置され、平成 31 年 3 月 23 日に供用開始となった。
- ・地域生活の充実、地域経済の活性化を目的とし、高速道路の既存施設から一般道に出入りできるように設置された ETC 専用の簡易型インターチェンジである。

【(2) 平均出入交通量（1日あたり）と累計出入交通量】

- ・令和 5 年の 1 日あたりの平均出入交通量は 950 台となっており、計画交通量の 610 台を大幅に上回っている。また、令和 6 年は 8 月末までの平均出入交通量で 970 台となっており、平成 31 年と比べ、約 1.5 倍に増加している。
- ・供用開始から令和 6 年 8 月末までの平均出入交通量も 750 台となり、新型コロナウイルス感染拡大等の影響による一時的な落ち込みはあったものの、順調に回復し、計画交通量を上回る状況である。
- ・累計交通量は約 150 万台となり、普通車・軽自動車が全体の約 9 割を占めている。

【(3) 曜日別出入交通量（全車種）】

- ・平成31年と比べ、全ての曜日において大幅に増加している。
- ・特に金曜から日曜までの週末が多くなっていることから、観光やレジャーに利用されることが多いスマートICであると考えられる。

【(3) 曜日別出入交通量（普通車・軽自動車）】

- ・全ての曜日において増加しており、当インターを利用し、令和4年11月27日に全線開通した上北自動車道へと走行する利用者の増加が一因と考えられる。

【(3) 曜日別出入交通量（中型車・大型車・特大車）】

- ・全ての曜日において微増の傾向が見られることから、当インターの利用が定着していることが想定される。
- ・交通量は、休日よりも平日の方が多いため、事業用・社用に利用されていると考えられる。

【(4) 前後ICの出入交通量の変化】

- ・三陸沿岸道路や上北自動車道にアクセスできない八戸ICは、令和5年と比較すると微増しているが、開通前と比べると減少している。
- ・一方で、八戸北IC、八戸西スマートIC及び八戸是川ICの交通量が増加したことで、前後ICを含めた全体の交通量は増加している。

3. 東北縦貫自動車道八戸線（仮称）八戸西スマートIC実施計画書

⇒東北縦貫自動車道八戸線（仮称）八戸西スマートIC実施計画書（平成26年6月）では、開通後に期待される整備効果として5事項を掲げている。

◆整備効果《（仮称）八戸西スマートインターチェンジ実施計画書（平成26年6月）から抜粋》

- (1) 高速道路の利便性向上
- (2) 地域産業、経済活動の活性化
- (3) 広域的な医療体制の充実
- (4) 防災活動の支援
- (5) 観光産業への支援

4. 整備効果について

【(1) 高速道路の利便性向上】

- ・実施計画では、高速道路のアクセス圏域10分圏が拡大し、五戸町から最寄りインターチェンジまでの所要時間が短縮され、利便性が向上する想定となっている。

- ・整備後、五戸町中心部から八戸ジャンクションまでの所要時間は、開通前の33分から開通後は26分と7分短縮されている。
- ・参考として、八戸西スマート IC 利用者の令和元年と令和5年度を比較した OD（起終点）調査を掲載。（青森河川国道事務所様より提供）
- ・ゴールデンウィーク期間を比較した場合、終点として、八戸駅周辺、八戸市中心部、ひばり野公園（五戸町）、道の駅はしかみが増加している。
- ・お盆期間を比較した場合、終点として、八戸駅周辺、八戸市中心部が増加している。
- ・10月～11月の土日祝日を比較した場合、終点として、八戸駅周辺、八戸市中心部のほか、五戸町中心部、いちよう公園（おいらせ町）が増加している。
- ・以上のことから、連休やお盆の時期は、新幹線利用の観光客や帰省客の送迎用に、八戸駅に近い当スマート IC が利用されていると考えられる。

【(2) 地域産業、経済活動の活性化】

- ・実施計画では、八戸市西部地区や周辺の町村において、ながいもやにんにくの農産物生産が活発であり、高速道路へのアクセス性が向上することにより物流の効率化が図られると想定している。
- ・整備後、八戸西スマート IC 周辺は地形が平坦であり、高速道路へアクセスしやすいため、労働時間短縮につながっているとの声がある。
- ・冬季間は八戸 IC への登坂を回避することができるため、交通事故リスクの軽減にもなっているとの声がある。
- ・現在、「八戸北インター第2工業団地」を整備中で、令和6年6月から分譲受付を開始しており、八戸北 IC と八戸西スマート IC の両インターへのアクセスが可能なおことから、企業立地の促進が期待されている。
- ・八戸駅周辺には令和2年4月「フラット八戸」が、令和6年5月には東北最大級の「トランポリンパーク」がオープンし、八戸西スマート IC を利用した経路がアクセスルートの一つとなり、イベント主催者や来場者の利便性が向上し、施設の利用促進及び周辺地域が活性化されている。

【(3) 広域的な医療体制の充実】

- ・実施計画では、五戸町方面や八戸市西部地区から八戸市立市民病院への救急患者搬送時間が短縮され、救急救命医療に大きく貢献すると想定している。
- ・おいらせ町から八戸赤十字病院への搬送時間が5分短縮され、救命救急医療に貢献している。
- ・救急隊員からは、揺れが少なく安定した走行が可能となり、患者への負担軽減や運転時の安全性向上など、効果を実感しているとの声がある。
- ・ドクターカーは、五戸町方面及び八戸市西部地区などの救急隊とドッキングする場合、状況によりルートを判断することになるが、混雑する中心市街地を回避してスムーズにドッキング出来ていると聞いている。

【(4)防災活動の支援】

- ・実施計画では、環状高速道路ネットワークを効率的に活用した災害時の救助・救援ルートが確保され、防災活動への貢献が期待されている。
- ・整備後は、八戸市の高速道路ネットワークが強化され、災害時の救助・救援ルートの多重化が図られ、八戸市西部地区を拠点とした多方面からの早急かつ安全な緊急輸送活動が可能となっている。
- ・八戸西スマート IC の立地が、令和3年5月に公表された最大クラスの津波時でも浸水予想エリア外にあるため、津波被害などにより道路が寸断された場合でも、防災拠点である八戸市長根屋内スケート場や救援物資集積場所・避難所等を結ぶ救援物資輸送ルートの選択肢が増えている。

【(5)観光産業への支援】

- ・実施計画では、三陸復興国立公園へのアクセス性が向上し、観光産業の活性化とともに、三陸沿岸の復興にも貢献すると想定している。
- ・整備後は、三陸復興国立公園や下北半島方面へのアクセス性が向上し、八戸駅から三陸復興国立公園方面へは11.5分の短縮、八戸駅から下北半島方面へは4.6分の短縮となっている。
- ・十和田八幡平国立公園、いわゆる奥入瀬溪流、十和田湖、八甲田山方面へのアクセス性も向上し、東西間の通行の利便性があがっている。広域観光にも寄与し、南郷方面から十和田八幡平国立公園方面へは7.9分の短縮となっている。
- ・高速道路の利便性が向上したことにより、種差海岸階上岳地域や陸中北部、三陸沿岸地域に点在する主要観光地（蕪島・種差海岸・小舟渡海岸・小袖海岸など）を結ぶ観光周遊ルートが確立され、三陸沿岸地域の観光振興・復興支援に貢献していると考えている。

5. 利用促進方策について

- ・今年度の新規事業は、市政情報モニターのデジタルサイネージを活用した情報発信である。
- ・八戸西スマート IC を起終点とする周辺の観光スポット紹介画面が八戸市庁本館1階、別館1階とイオン八戸田向店の3か所で表示されている。